

事務事業評価シート

(H.28)No.	7013-3	(H.27)No.	7013-3
-----------	--------	-----------	--------

事務事業名	介護老人保健施設ゆりの里 (病院事業会計)		
担当部局名	担当室名	室長名	
市立病院事務局	ゆりの里(総務室)	中嶋 知子	

会計区分	事業コード	070133
病院事業会計	(中事業名)※予算書事業名	
款		
項	(小事業名)	
目		

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	1	互いに認めあい支えあう、健康で安心できる暮らし
	基本政策	5	自立を支える地域福祉の充実
	施策	1	高齢者福祉
	小施策	3	保健福祉サービスの充実
重点施策コード			

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
要介護状態の高齢者等が、介護・看護・リハビリ等のサービスを通じ、その人の有する力に応じた自立支援、家庭生活への復帰をめざし、居宅サービス事業者と連携しながら、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを支える事を目的としています。
事業内容
・施設サービス:介護を必要とする高齢者等の自立を支援し、家庭復帰をするため、医師による医学的管理の下、専門職による看護・介護・リハビリテーション、また、栄養管理・食事・入浴等の日常生活上のケアサービスを提供します。 ・在宅サービス(通所リハビリテーション・短期入所療養介護):居宅介護サービス計画に基づき通所・短期宿泊の方法で、医師による医学的管理の下、必要なリハビリテーション・介護・入浴・食事等のサービスを提供します。

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.27年度(事業量・取組実績)	H.28年度(事業量・取組計画)	H.29年度(事業計画)	H.30年度(事業計画)	H.31年度(事業計画)	
主な事業の実績・計画	施設利用サービス ・入所者 (年間在在所者延べ人数) 16,640人 ・通所者 (年間通所者延べ人数) 1,776人 ・短期入所者 (年間利用者延べ人数) 292人	施設利用サービス ・入所者 (年間在在所者延べ人数) 16,983人 ・通所者 (年間通所者延べ人数) 1,752人 ・短期入所者 (年間利用者延べ人数) 292人	施設利用サービス ・入所者(年間在在所者延べ人数)16,983人 ・通所者(年間通所者延べ人数)1,752人 ・短期入所者(年間利用者延べ人数)292人	施設利用サービス ・入所者(年間在在所者延べ人数)16,983人 ・通所者(年間通所者延べ人数)1,752人 ・短期入所者(年間利用者延べ人数)292人	施設利用サービス ・入所者(年間在在所者延べ人数)16,983人 ・通所者(年間通所者延べ人数)1,752人 ・短期入所者(年間利用者延べ人数)292人	施設利用サービス ・入所者(年間在在所者延べ人数)16,983人 ・通所者(年間通所者延べ人数)1,752人 ・短期入所者(年間利用者延べ人数)292人

	H.27年度(決算見込)	H.28年度(作成時予算額)	H.29年度(計画予算)	H.30年度(計画予算)	H.31年度(計画予算)
①直接事業費	101,274千円	109,707千円	109,675千円	109,675千円	109,675千円
内訳(千円)					
国・県支出金					
地方債		0			
その他()	85,991	97,666	97,634	97,634	97,634
一般財源	(0) 15,283	12,041	12,041	12,041	12,041
人工数					
職員	15.30人	17.30人	17.30人	17.30人	17.30人
臨時職員等	14.40人	17.70人	17.70人	17.70人	17.70人
②概算人件費	(0千円) 189,960千円	214,849千円	214,849千円	214,849千円	214,849千円
①+②総事業費	(0千円) 291,234千円	324,556千円	324,524千円	324,524千円	324,524千円

4. 担当室による事務事業の点検 (*点検等による成果向上や見直しが困難な事業(法令等による義務的経費、災害復旧等緊急事業など)は点検対象外)

考察(H.27年度の取組評価、課題)	今後の対応方針(課題解決への取組、工夫・改善の内容)
・入所者数は昨年に比べ、ショートステイを含め延べ日数で2452日増えた。平均在所日数は141日であり、老健施設としての役割を果たした。居宅介護サービスである通所サービスは利用実績が向上した。勤務経験の浅い職員が多く、雇用不安定な状況が続いているため、サービスの質をいかに維持していくかが課題である。	・相談から入所に至るまでの手続きをスムーズにします。入所者の退所時期の計画を立て、さらに積極的に在宅復帰が叶うよう、家族に働きかけ、居宅介護支援事業者と連携し、在宅介護支援を促していきます。 ・臨時雇用している職員のレベルアップやモチベーションが続くよう、研修等を多く計画し、資格取得の支援を行います。

点検項目	内容(施策達成への貢献内容、連携・協働の実践・検討内容)
(1) 事業内容や取組成果は、総合計画の施策達成に貢献しているか B(いずれかの施策指標達成に貢献又は基本方針達成に貢献)	医療と福祉の中間に位置する老人保健施設は、市立病院から退院した人達が、安心して在宅復帰を目指せるように支援していきます。また、在宅介護が継続できるよう、介護者への支援もおこない、安心して暮らし続けることができるようになります。
(2) 地域づくり組織、市民活動団体等との連携・協働は図れないか 実践している(※実践内容を記載→)	ボランティア団体や趣味の活動団体に対して発表の場を提供することにより協働を図り、またその発表の場を月々の施設行事として入所者や家族に楽しんでもらっています。

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(改善)
具体的な見直し内容・検討内容、継続の理由	6. 事務事業の取組に関する主な市の計画
・市立病院と連携し、高齢者の看護介護を充実します。地域包括ケアを担う中核施設として在宅介護者を支援します。また職員のスキルアップを図り、働きがいのある職場づくりを目指します。	